

近衛文麿が「霜下傑」の文字を、十五代目市村羽左衛門が菊の絵を、東京医科歯科大学創立者の島峯徹先生が「延寿客」の文字を寄せ書きました。



東京医科歯科大学の過去から現在までの
トピックス、エピソードをピックアップして紹介します。

歯学部資料室

1989年(平成元年)開設



いくつもの陳列ケースのほか、壁に並んだ浮世絵も目を引く。

歯学部附属病院2階奥の歯学部資料室には、江戸後期に使われた木製義歯・橋義歯、喜多川歌麿による鉄漿(おはぐろ)を施した美人図など、歯科治療の歴史を知る資料としてはもちろん、美術品としても貴重な収蔵品が多数展示されている。三浦不二夫先生の発案により資料収集が始まり、江藤一洋先生や本山佐太郎先生、長谷川成男先生らの尽力により、ここまで発展することができた。陳列ケースの収蔵品を一つひとつ眺めていると、本邦における歯学の歩みを感じられる。



島峯徹先生が1936年にドイツより授与されたローテルクロイツ勲一等。



渡辺華山「一掃百態より居合抜き、抜歯の図」(1879年初版特製本)。蘭学者であり絵師でもある渡辺華山が描いた江戸庶民の姿。右ページに弟子の居合抜きに合わせて抜歯しようとしている大道歯科医の様子が描かれている。



木製橋義歯と木床義歯。人工歯には牛歯を使っている。木床義歯の奥歯には摩耗を防ぐために金属鉋が打ってある。